

種目名	書 写	選定替えの有無	有・無	選定発行者名		従来の発行者名	教育出版
-----	-----	---------	-----	--------	--	---------	------

発行者 観 点		東京書籍	三省堂
1 学習指導要領との関連		幅広い知識と教養を身に付け、文字を正しく整えて書く力を高めるとともに、日常生活で生かそうとする態度を養うことができるよう工夫されている。	学習過程を明確化するとともに、学習の系統性を重視することで、学習指導要領の目標と内容を確実に指導することができるよう工夫されている。
2 「あいちの教育の基本理念」との関連		学んだことを活用するために、具体的な場面を想定して話し合う活動が設定されており、主体的・協働的に学び、深く考えることができるよう工夫されている。	各教材に、目標と振り返りが要点をしぼって見やすく配置されており、生徒自身が学習課題を意識しながら学びに向かうことができるよう工夫されている。
3 内 容	(1)内容の選択	ICT機器を活用した学習が進む中、「書く」ことに対する意義を高めるために『文字を「書く」って、なんだろう』を巻頭に示し、生徒の学びに向かう力を高める工夫がされている。 「これまでに学んできたこと」では、姿勢や字形、配列などの観点から、小学校の内容が簡潔に整理されている。後出の中学校の学習もそれらと関連付けてあり、身につけた基礎的な技能や態度を生かすことができるよう工夫されている。	「書き方を学ぼう」では、書き方のポイントを具体的な字形例とともに記載されており、何を身に付けるべきか分かりやすく示されている。 学年ごとに「やってみよう」という発展学習が設定されている。新聞や名言集など、さまざまな制作活動という形で、学習を生かす場となっている。
	(2)内容の程度	巻末の「書写活用ブック」では、生活の様々な場面で使用する書式が詳しく載っていることで、既習の内容を十分に補充、発展できるようになっている。 「書写のかぎ」では、本時のポイントが簡潔にまとめられており、毛筆から硬筆への応用を円滑なものにしている。	「書いて身につけよう」では、生徒の身近なものから社会生活へと広がるように言葉が選定されており、生徒の発達段階や生活経験に適している。 学習内容の基本となるものは大きく示し、習得させるときには多くの例題（文字）をまとめて練習できるようになっている。
	(3)内容の構成	全ての単元で、身に付けたい知識及び技能を「書写のかぎ」として系統的に示すことで、生徒は学習課題や見通しをもって取り組むことができるようになっている。 ほとんどが、同一ページ内で毛筆から硬筆への関連付けができるよう、紙面割が意識されている。	「書き方を学ぼう」では、学習課題、学習のポイントが具体的な字形例とともに示されていることで、視覚的にも理解しやすく学習できるようになっている。単元ごとの振り返りを、本誌内に文字で書き残すようになっており、言語化による振り返りを促す工夫がされている。
4 表記・表現及び使用上の便宜等		単元の目標に対応するように、練習するときのポイントが表記されているため、生徒自身がどのようなことに気を付けて練習するといか明確になっている。	同じ文字を楷書と行書で示して違いを比べさせることで、生徒自身がポイントを考えながら練習を進めていけるようになっている。
5 印刷・造本等		文字の大きさが適当で、色味も優しい色遣いになっており、学年ごとに中表紙もあるため、視覚的に使用しやすい紙面となっている。	学年ごとに色遣いを変えたり、文字数を極力少なくしたりすることにより、シンプルで見やすい紙面となっている。

発行者 観 点		教育出版	光村図書
1 学習指導要領との関連		文字文化の豊かさを伝えるとともに、系統的に単元を配置することで、主体的に書く力を育み、課題解決を図ることができるよう工夫されている。	幅広い知識や技能、教養を身に付けるとともに、課題解決をする過程で、学びに向かう力などの生きる力を支える能力を養うことができるよう工夫されている。
2 「あいちの教育の基本理念」との関連		手書きの良さを伝えることで日本の伝統を愛する心を育むとともに、デジタルコンテンツの充実によりどのような状況でも学ぶことができるよう工夫されている。	今日的な教育課題やSDGsについて充実した内容が取り上げられており、社会の担い手として豊かな人間性と確かな実践力を育むことができるよう工夫されている。
3 内 容	(1) 内容の選択	「学習の進め方」によって主体的に取り組める工夫がされている。話し合い活動を通した学び方も示されており、「対話的な学び」が重視されている。表紙裏では、中学校生活らしい場面が取り上げられ、文字や書を、目的に合わせて書いてみたくなるよう工夫されている。	「手書きのよさって、何だろう」で「書くこと」の意義について分かりやすく示されており、生徒の学びに向かう力が高められる工夫が見られる。学習の進め方が「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3つのステップで分かりやすく示されることで、生徒が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 「考えよう」のページが随所に見られる。ワークショップ形式で、新しい学習内容に対する、興味付けとなるよう工夫されている。
	(2) 内容の程度	巻末の「書式の教室」では、手紙や封筒の書き方が掲載されており、既習した内容を身近なところで発展できるようになっている。 「学習を生かして書く」のページを複数にまたぎ、丁寧な説明や補足を入れながら、学習者が自分で思いや考えをもちやすくなるよう工夫されている。	別冊の「書写ブック」を活用することで、既習の毛筆の内容を硬筆に生かすことができるようになっている。硬筆と毛筆の関連を意識させるだけでなく、既習内容を補充・発展させることもできるようになっている。 漫画調のページ、見出しの表現（言葉遣い）の工夫、実物カラー写真など、さまざまな「見せ方」により、多様な学習者への配慮がなされている。
	(3) 内容の構成	「試し書き」から「まとめ書き」まで見通しをもって課題をもちながら取り組めるようになっている。また、硬筆に生かすことができるようになっている。 発展課題では、複数の課題（例）が挙げられており、学習者や学校の実態に応じて幅広く選択できるよう工夫されている。	「書写ブック」を活用することで、既習した内容を繰り返し硬筆で練習でき、書く力を身に付けることができるようになっている。 著名人の手書き文字や様々なフォントを紹介したりするなど、現代に合った形で言語文化に親しめるように構成されている。 ページの右から左へと目をやっていくことで学習が進む構成になっている。左ページの端で硬筆との関連付けができるようになっており、本時の流れが視覚的に分かりやすくなっている。
4 表記・表現及び使用上の便宜等		教材文字の気を付けるべきポイントや、筆順や筆脈などが具体的に示されていることで、練習時にどのようなことに気を付ければよいかが明確になっている。	同じ文字を楷書と行書で示して違いを比べさせたり、教材文字のポイントを確認させたりすることで、生徒自身が考えながら学習を進められるようになっている。
5 印刷・造本等		横幅を広くすることで情報量も多くなり、資料性が高い。また、学年ごとに色遣いが違うので、視覚的に使用しやすい紙面となっている。	文字数を少なくしたり、教材の手本を見開き1ページを使って大きく示したりして、すっきりとした紙面となっている。